

太陽光パネル再資源化

三井住友F.L・住商参入

三井住友ファイナン
ス&リース(SMF
L)と住友商事は、太
陽光パネルのリサイク
ル事業に参入する。発
電所や建物の屋根から
使用済み太陽光パネル
を回収し、金属やガラ
スなどに分別して精錬
会社や建材メーカーに

売却する。9月ごろか
ら1年程度、実証実験
を行い本格展開につな
げる。2010年代に
急速に普及した太陽光
発電のパネルは30年代
に寿命を迎え、年間80
万トンの大量廃棄が見込
まれる。両社はその5
%相当の年間4万トンの

リサイクルを目指す。
リサイクル事業者の
アビツ(名古屋市港
区)を通じて全国の廃
棄物処理業者と連携
し、太陽光パネルを回
収する。検査機器を使
ってリユース可能と判
定したパネルは発電事
業者へ売却。劣化品は

アビツがアルミニウム
枠やガラス、樹脂、電
池などに分別して原料
メーカーに販売する。
太陽光パネルの寿命
は20-30年とされる。
12年に始まった再生可
能エネルギー固定価格
買取制度(FIT)に
伴い、大量に導入され

たパネルは30年代から
廃棄が始まる見通し。
パネルには金属シリコ
ンなどのレアメタル
(希少金属)のほか、
種類に応じてカドミウ
ムなどの有害物質も含
まれており、資源の有
効利用や廃棄物の適正
処理が課題となる。
これまでSMFLは
太陽光パネルのリース
提供を通じて脱炭素を
推進しており、今後は
リサイクル網も構築す
ることで循環型社会の
形成を後押しする。